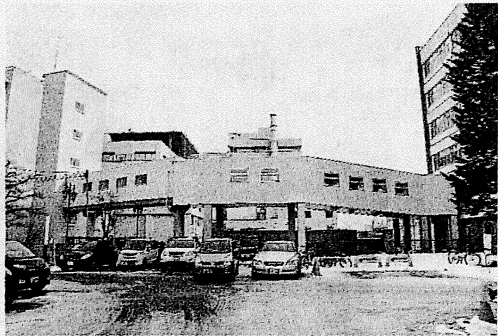


新型健診やライフ分野開発

弘大に健康、産業拠点

国が採択 18年稼働 COIと連動へ



健康未来イノベーションセンターの整備予定地

弘前大学医学部キャンパスに、地域住民の健康づくりと医療・健康産業の拠点となる「健康未来イノベーションセンター」が整備される。健康教育の拠点を置いた、新たな「啓発型健診」のスペースを確保して住民の健康づくりを常時直接サポートしつつ、そこから得られる健康ビッグデータを活用した病氣予防に向けた製品・サービス開発など、ライフイノベーション産業の一大拠点を目指す。稼働は2018年春。(西尾 瑛)

文部科学省が地方創成と共同提案した「革新生」に向け、地域が持つ「地域ライフイノベーション」や「産学官が共同研究を行う拠点づくり」を支援する「地域科学技術実証」の「健康ビッグデータ整備事業」(事業総額150億円)に採択された。1拠点当たりの最大10億円程度の施設整備費支援が受けられる。

弘大は、県、弘前市(センター・オブ・イノベーション「COI」)と共同提案した「革新生」に向け、地域が持つ「地域ライフイノベーション」や「産学官が共同研究を行う拠点づくり」を支援する「地域科学技術実証」の「健康ビッグデータ整備事業」(事業総額150億円)に採択された。1拠点当たりの最大10億円程度の施設整備費支援が受けられる。

型健診の実証開発拠点となるほか、自治体や、大手企業など産学官が一堂に集い、スーパーコンピュータによる健康ビッグデータの解析などを行う。これまでの一般的な健診では、結果通知まで時間がかかる上、問題があってもその後の治療や再検査、生活改善につながりにくい課題があったが、啓発型と接しながら研究的なデータの蓄積が可能であり、それを生かした画期的商品、サービス、事業創出にもつながる可能性がある。

弘大COI戦略統括の村下公一教授は「COIの成実を社会の役に立てるためのイノベーションの拠点ができる。地域の活性化にも大きく貢献する」と、同研究統括の中路重之医学研究科教授も「COIが中心となって取り組んできた県の短命県返上と企業の活性化の拠点となり得る。一層中身を充実させつつ、市民がいつでも集い健康について学べる場所にしたい」と期待。

また共同提案した県の三村申吾知事は「県の重要課題である平均寿命の延伸のみならず、ライフ関連産業の振興による地域経済の活性化にも弾みがつくものと期待している」とした。

弘前市の葛西憲之市長は「岩木健康増進プロジェクトで蓄積してきた健康ビッグデータを活用した研究が加速され、新たな健康増進による市民の健康増進につながることを期待している」とコメントした。

弘大によるとセンターは、医学部の基礎研究棟と臨床研究棟の間に2階建てで整備。弘大COIで実施する新しい健康未来イノベーションセンターの整備予定地

弘大は、県、弘前市(センター・オブ・イノベーション「COI」)と共同提案した「革新生」に向け、地域が持つ「地域ライフイノベーション」や「産学官が共同研究を行う拠点づくり」を支援する「地域科学技術実証」の「健康ビッグデータ整備事業」(事業総額150億円)に採択された。1拠点当たりの最大10億円程度の施設整備費支援が受けられる。